

平成 28 年度食物栄養学科自己点検・評価報告書

	目 次	頁
自己点検・評価項目およびメンバー	1
I 教育	1
1 教育課程	1
(1) 教育課程		
(2) 教職課程		
(3) 社会法人全国栄養士養成施設協会栄養士実力認定試験		
(4) 教育課程懇談会		
2 校外実習・教育実習	4
(1) 校外実習		
(2) 教育実習		
II 学生支援	7
1 学生指導	7
2 進路指導（就職・進学）	8
3 卒業時アンケート	10
III 地域貢献	11
1 研究・社会的活動所属関連団体・研修	11
2 管理栄養士国家試験準備講習会	11
3 公開特別講演会	12
4 公開講座	13
IV 入学者確保	13
1 学生募集	13
2 入学試験	15
3 広報	15
V マネジメント体制	16
1 自己点検	16
2 FD／SD活動	17
3 資源の有効利用	17

自己点検・評価項目およびメンバー

自己点検・評価項目	メンバー
概要	
専攻科食物栄養専攻の運営	竹内 弘幸 富岡 徹久 田淵 英一
Ⅰ 教育	深井 康子 堀田 裕史
Ⅱ 学生支援	稗苗 智恵子 山岸 博美 高木 尚紘
Ⅲ 地域貢献	大森 聡 樋口 康彦 角田 香澄
Ⅳ 入学者確保	稲場 暁子 廣田 恵巳 宮田 佳奈

I 教育

1 教育課程

(1) 教育課程

1) 実績

① 教育課程表

平成 28 年度食物栄養学科の教育課程は、前年度と比べ、学則改正はなく担当教員のみの変更となっている。

② 資格取得数

平成 28 年度卒業生 102 名（前年度と比較して 24 名増）の資格取得数は、栄養士 99 名（23 名増）、栄養教諭二種免許 10 名（1 名減）、フードスペシャリスト 17 名（10 名減）、専門フードスペシャリスト（食品開発）1 名（1 名増）、社会福祉主事任用資格 102 名（24 名増）であった。

③ 学位授与方針、教育課程編成・実施の方針

平成 28 年度も継続して、学位授与方針と教育課程編成・実施の方針を再吟味した。結果として、全学的に表現を統一することに従い、細かい字句を変更するとともに、全学 D P 「五つの力」と「五つの基準」別に「L O 学修成果」を配置し、全学統一形式に準拠した。

④ 平成 27 年度新入生への対応

平成 28 年度は、平成 27 年度入学者数は 100 名をオーバーしており 2 年に持ち上がった。対応は F306 の学生用 P C を 54 台化したものに栄養計算ソフトをインストールした。一方、専攻科学生の F306 使用を廃止した。その結果、2 年次学生の栄養計算の実施に問題がなく、F306 使用がネックとなっていた時間割編成も可能となった。また講義室・実習室等の設備で特に不足等はなかった。

⑤ 時間割編成ネック解消

専攻科の F306 使用を廃止し、F306 使用に若干のゆとりが生じさせることで時間割編成が可能となった。ただし時間割編成のネックは他にも開講科目数が多すぎるこ

ともよるので、検討は継続する必要がある。

⑥ 給食管理校外実習について

平成 27 年 9 月の厚生労働省東海北陸厚生局の現地視察で給食管理校外実習資料不十分との指摘に対し、学内実習課題指導証明書を作成し、給食管理校外実習資料不備が発生しないよう対応した。

⑦ Web シラバスとその関係ツールの使用の拡大策

平成 27 年度は、Web シラバスシステムでの授業アンケートの回答率が、食物栄養学科は全学の中で格段に低かった。平成 28 年度は、前後期とも定期試験期間の最終日に、授業アンケート回答の時間を設けた（未記入者のみ対象）。これにより、少なくとも前期は他学科と同等の授業アンケートの回答率を達成できた。

2) 課題・行動計画

① 給食管理校外実習について

平成 27 年 9 月の厚生労働省東海北陸厚生局の現地視察で指摘された実習時間の確保については、無理なく継続できるような方法を探る必要がある。

② 平成 28 年度より Web シラバスとその関連ツールの活用促進

平成 29 年度は、平成 28 年度に増して、より利用を促進するようにすることが課題である。

③ 時間割過密状態について

食物栄養学科は、実験・実習が多いこと、取得すべき単位数も多いことなどから、時間割が過密である。特に 1 年後期、2 年前期の時間割が過密であり、また F 館コンピュータ演習室使用授業が多く時間割を難しくしている。時間割過密状態への対応は、今後とも継続して検討する必要がある。

(2) 教職課程

1) 実績

教員組織

教職課程の教員組織全体としては、専任教員設置の分野に専任教員数を充足するなど専任教員数は基本的には安定している。一方「教育原理」「教職課程総論」はじめ計 5 科目を非常勤講師が担当している状況に変化はない。

平成 28 年度は専任の教員 1 名が幼児教育学科へ異動し、平成 27 年度 3 名であった専任教員数は 2 名となった。

① 免許取得学生数

平成 28 年度教員免許取得数は 10 人で、ここ数年 10～15 名で推移している。10 名未満では学生同士による切磋琢磨による活性化に問題があり、15 名を超えると受入先等の問題もあるので教育面からみると適性な範囲と思われる。

② 平成 26 年度文部科学省視察への対応継続

平成 26 年 12 月 10 日の文部科学省の教員免許課程現地視察での授業科目「栄養教育実習指導」への指摘事項「事後指導の記述が見当たらない」に対応して、当該科

目に事後指導として栄養教育実習報告会の準備指導・発表を実施し以後継続する。

2) 課題・行動計画

① 平成 29 年度中の平成 30 年度以降の教職課程認定に向けて

平成 30 年度からは教職課程が一新されるため、全ての教職課程設置大学・短大は平成 29 年度中に教職課程の認定を受けなければならない。本学の栄養教諭二種免許も同様であり、平成 29 年度中は対応に追われ平成 30 年 3 月末までに認定されなければ、教職課程は廃止となる。認可のための手続き等は、まだ明らかにされておらず現在は何もできない状況にある。「教科に関する科目」「教職に関する科目」の区別がなくなる程度の情報しかなく、具体的手続きが発表されて以降の素早い対応に全てかかっている。さらに学内的には、授業科目の番号体系と抵触しないか、Web シラバスの科目分類体系と抵触しないかなど情報システムとの対応に留意する必要がある。

② 平成 29 年度以降の定年退職者対策

平成 30 年度以降の教職課程認定に専任教授 1 名以上必須の条件が維持されるようなら、今後数年安定的に専任教授 1 名を維持できるような対策をとる必要がある。

(3) 社団法人全国栄養士養成施設協会栄養士実力認定試験

1) 実績

本学は、社団法人全国栄養士養成施設協会による栄養士実力試験を導入初年度の平成 16 年度より実施しており、平成 28 年度で 13 回目となる。

この試験は、全国の栄養士の資質向上と均一化を図り、栄養士養成施設の教育に関する認識の連携と強化を目的に実施している。判定基準は、A（栄養士として必要な知識・技能に優れ絶対的信頼が置けると認められた者）、B（栄養士としてほぼ十分な知識・技能を取得しているが、なおいっそうの資質の向上を期待される者）、C（栄養士としての知識・技能が不十分でさらに研鑽を必要とする者）の 3 ランクに分けられる。

試験結果の平均をみると短期大学が 40.2 点に対し、本学は 42.7 点で全国短期大学の平均より 2.5 点高い。本学は 2 年次に受験しているが、3 年次に受験している四年制大学、管理栄養士養成校を含めた全国平均には及ばないものの、本学は短期大学においては全国的にみても栄養士実力試験での実力を発揮していることが示唆される。

栄養士実力認定試験の受験人数・試験結果の推移

回数		11回	12回	13回
年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
受験者数(人)	全国	9906	10349	10350
	短期大学	4602	4514	4501
	本学	87	78	102
平均(点)	全国	37.8	43.2	43.9
	短期大学	34.4	38.8	40.2
	本学	39.3	41.4	42.7

全国：四年制大学（管理栄養士、栄養士養成、3年次受験）、短期大学、専門学校などの養成施設

2) 課題・行動計画

来年度は、Aランク者の割合が多くなるように学生に対して実力認定試験受験への意識をより高め、早期から継続的に働きかけていく必要がある。

本学の学生が実力認定試験を通して平均点の向上とともに、真の実力を習得できるよう、模擬試験や栄養士総合演習の在り方の検討が要である。

(4) 教育課程懇談会

1) 実績

以下のとおり教育課程懇談会を実施し、教育課程等を中心に日頃感じていることについて懇談を行った。また、フードスペシャリスト資格について、今後のあり方に意見交換を行った。

実施日：平成29年3月7日(火)9:30~11:30

場 所：食物栄養学科会議室 F314室

参加者：食物栄養学科 教職員14名

懇談内容：1. この一年を振り返って（各教員）

2. フードスペシャリストについて

2) 課題・行動計画

フードスペシャリストについては、教員の配置や教員の確保および資格試験の受験者数の減少等の課題がある。今後、フードスペシャリストについての方向性について検討を行う。

2 校外実習・教育実習

(1) 校外実習

1) 実績

- ① 平成 28 年度は 2 年生 99 名が 8 月から 9 月および 2 月に 2 単位の校外実習を行った。その内、実習先は病院 25 カ所、福祉施設 36 カ所、学校 8 カ所である。なお、学校実習は 1 単位とし、栄養教諭二種免許を取得する学生を対象としている。不足の 1 単位取得するために病院実習及び福祉施設実習のいずれかで行った。
- ② 抗体価検査は 1 年入学時に実施しており、風疹、水痘帯状ヘルペス、麻しん、流行性耳下腺炎の検査結果が陰性もしくは低い値であれば、できるだけ早い時期に接種するよう指導を行なった。
- ③ 実習施設によっては患者及び職員の個人情報の保護に関する誓約書を必要とする施設が増えてきた。
- ④ 実習報告会は 1・2 年生を対象に行った。2 年生には校外実習の成果を発表するよい体験となった。1 年生にとっては、来年度の実習に向けての心構えを得る機会となった。また、大学祭でのクラス企画として、実習の課題報告やポスターなどの媒体を展示し、好評を得た。
- ⑤ 実習報告会に向けて全学生がレポートを提出したのでまとめて冊子を作成し、学生、教員へ配布を行った。実習受託先一覧等、各施設の詳細は報告書を参照。

2) 課題・行動計画

- ① 実習に対する姿勢等での注意を受ける学生が、ごく一部ではあるが増加傾向にある。事前指導において実習開始から終了までに取り組まなければならない事項についてきめ細やかにケアしていく必要があるように思われる。
- ② 校外実習中の SNS の取り扱いに関して注意喚起を今後も継続していく必要がある。

(2) 教育実習

1) 実績

- ① 28 年度は 10 名が実習を行った。
- ② 栄養教育実習期間は、9 月 9 日～23 日のうちの 1 週間行った。
- ③ 実習校は別表のとおり、8 校で実施した。
- ④ 実習は全て小学校で行い、1 校あたり 1 名～2 名の配属であった。
- ⑤ 富山市及び高岡市教育委員会へは、担当者が教育委員会に出向き担当者に依頼し、その他の教育委員会は事前に電話にて了解を得て、直接学校に依頼して決定した。
- ⑥ 実習は給食管理と教育実習の 2 週間を連続して同一校で実習することを原則としているが、氷見市、滑川市、砺波市においては、給食管理実習を給食センターで実施した。
- ⑦ 実習校への挨拶は、担当者や学生が事前に訪問し、要望や留意点を伺い実習に備えた。また、実習期間中は、本学教員が学生の実践授業を参観した。
- ⑧ 大学祭時には、実習で使用した資料や実習内容をまとめて展示した。
- ⑨ 実習発表会は、11 月 22 日(火)に開催した。1 年生にとっては発表を聞くことに

より、指導案の作成や実習に向けて準備しておくことが分かり、有意義な発表会であったと思われた。また、後輩から先輩への実習に係る質疑応答も実施した。

2) 課題・行動計画

- ① 一般教員や養護教諭、他県の栄養教諭の教育実習生は、実習前年度に実習校と交渉を済ませている。本学は、実習当年度に入ってから依頼しているため、実習校からは、“もう少し早く知らせてほしい”、という指摘もあった。そのため、1年生の成績が確定したら、早急に教育実習委員会を行い、4月上旬までに市町村教員委員会や実習校に依頼をする。(本学のシステムからは、前年度から依頼することは困難であるが、少しでも早い時期にアポイントメントを取る手立ては必要であろう。)
- ② 栄養教育実習は1週間と短いため、少しでも学校組織や児童の実態を理解することが、栄養教育実習をより効果的に実施できると考えているため、本学では原則給食管理実習と栄養教育実習を同じ学校で実施できるよう実習校に依頼している。しかし、給食管理実習(栄養士免許取得目的)と栄養教育実習(栄養教諭免許取得目的)の意味や違いを理解していない学生もいるため、実習前に周知しておく必要がある。
- ③ ②の意義を踏まえつつ、次年度も市町村教育委員会には、この趣旨をご理解いただくよう働きかけていく。
- ④ 学生から実習時の心構えについて不安の声が多かったため、言葉遣い、挨拶の徹底、発声、聴講時の留意点等を指導した。
- ⑤ 栄養教育実習指導の授業では実習の目的及び心構え等について指導し、教育実習での研究授業を想定した模擬授業を行い、教員としての自覚や意欲につなげるようにしているが、授業時間数の確保が難しいため、1年生から教職に係る科目を通して、継続的な指導を行うことが望ましい。
- ⑥ 1学年と2学年の連携、短大と実習校との連携を充実させることで、より良い実習になるよう努めていく。

平成28年度 栄養教育実習 実習校一覧

	実習校	栄養教育実習期間	実習生数(名)
富山市	山室中部小学校	平成28年9月12日(月)～16日(金)	2
富山市	堀川小学校	平成28年9月15日(火)～23日(金)	2
富山市	速星小学校	平成28年9月9日(金)～15日(木)	1
高岡市	下関小学校	平成28年9月14, 15, 16, 20, 21日	1
氷見市	宮田小学校	平成28年9月12日(月)～16日(金)	1
滑川市	田中小学校	平成28年9月5日(月)～9日(金)	1
砺波市	庄川中学校	平成28年9月12日(月)～16日(金)	1
射水市	大門小学校	平成28年9月12日(月)～16日(金)	1
		計	10

II 学生支援

1 学生指導

1) 実績

① 休学・退学・復学

平成 28 年度入学生は 3 月末で 2 名の退学者と、1 名の休学者が出た。平成 27 年度入学生が 1 名 28 年度後期から 29 年度前期まで休学中である。

② 学科および学校行事への参加

郷土料理や加賀料理などを実際に味わって体験する日帰り研修や、大規模な食品工場や地域特産食品の製造工場などを見学する研修旅行は、食物栄養学科の科目をより深く理解する上で役立っている。これらの行事は栄養士総合演習の一部として実施している。

また、大学祭では、学科企画として、1 年生は「スイーツラボ」をテーマとして創作菓子をレシピと併せて配布した。2 年生は、8 月から 9 月にかけて実施した校外実習の成果を報告した。併せて、両学年とも保護者懇談会を実施した。

各行事の実施概要は以下のとおりである。

a. 日帰り研修

期日：平成 28 年 5 月 26 日（火）

内容：1 年 五箇山（報恩講料理、世界遺産菅沼合掌造集落散策）

学生 80 名 教員 4 名 参加

2 年 つば甚（加賀料理）・近江町市場散策

学生 102 名 教員 4 名 参加

b. 研修旅行

期日：平成 28 年 9 月 15 日（火）～16 日（金）

対象：1 年 80 名、教員 4 名参加

場所：長野方面

1 日目 伊那食品、養命酒工場見学およびテーブルマナー。

2 日目 カゴメ工場、わさび漬け体験

③ 52 回大学祭

期日：平成 28 年 10 月 21 日（金）～23 日（日）

④ 保護者懇談会

期日：平成 28 年 10 月 23 日（日）

対応：担任（1 年担任、2 年担任）

内容：1 年生は前半、就職や進路など最も相談したいと思われる内容について全体説明をした後、希望者について個別懇談を行なった。2 年生は、進路について具体的な質問が予想されるため、個別懇談のみを行なった。

個別相談では、1・2 年生とも、就職や進路について相談が多く、健康面についての相談もあった。

2) 課題・行動計画

① 入学して間もなくから学業に専念できない学生がいることを想定して、早期に個別や集団面接を取り入れ、保護者、担任、学生およびカウンセラー等との連携を図り、学生生活の支援や相談を行なっていく必要がある。

② 学生生活・授業内容等の満足度の高さを維持していくために、web シラバスや図書館等を活用し学ぶ姿勢を身に着けることができるように働きかけが必要である。

また、学生の社会参加活動や、ボランティア活動は減弱傾向にあるが、今後、積極的な活動を促し、コミュニケーション能力を含めて社会貢献ができる社会人を育てる必要がある。

2 進路指導(就職・進学)

1) 実績

① 進路状況

卒業生 102 名の進路状況は、就職 94 名 (92.2%)、大学 3 年次編入学 5 名 (4.9%)、製菓専門学校 1 名 (1.0%)、その他家事等 2 名 (2.0%) であった。就職を希望した学生の内訳は、専門職の栄養士は 76 名 (80.9%)、栄養士に準ずるは 10 名 (10.6%)、一般事務、販売等は 8 名 (7.8%) であった。栄養士、栄養士に準ずる業務の専門職の状況は例年並みであった。また、栄養士職の主な内訳では直営施設の保育所・こども園 8 名 (10.5%)、福祉施設 23 名 (30.3%)、医療機関 5 名 (6.6%) と昨年の倍程度の採用があった。一方、事業所・委託給食会社は 34 名 (44.7%) と昨年の 53.4% から減少した。

② 就職先へのお礼

平成 28 年 6 月に、食物栄養学科専任教員で平成 28 年 3 月に卒業した学生の就職先 (50 ヶ所) へ就職定着のための巡回と次年度の求人依頼を行なった。

③ 模擬面接について

実務指導の時間に、就職活動に必要な自己分析、模擬面接指導を行なった。また、「先輩と語る会」を 7 月 13 日 (水) に実施し、3 名の先輩から「就職活動の実際と心構え」についてアドバイスを貰い、就職に対する学生の意識の高揚に努めた。

④ 給食会社説明会実施

進路決定の一助として 5 月 14 日 (土) に委託給食会社 5 社の説明会を本学で開催した。学生はほぼ初めての専門職の求人に対し真剣に説明を聞き、意欲的な就職活動に繋げることが出来た。

⑤ 求人情報収集及び求人開拓

平成 28 年度卒業生の就職に向けての求人情報収集と求人開拓のために、県内外の専門職関係機関などへの依頼を実施した。依頼状、求人票、学科概要、平成 26 年度卒業生の進路状況、カレッジガイドなど 353 通送付した。

⑥ 進路ガイダンス

就職支援センターと協議しながら、1 年生への進路ガイダンスは以下のように取り組んだ。

- a. 進路ガイダンスⅠ・・・平成28年12月5日(月)に学科長や支援センター長から就職についての取り組み方を、また、内定を貰った在学生3名から自分の体験を振り返り、1年生へアドバイスの時間を設けた。
- b. 進路ガイダンスⅡ・・・平成29年2月13日(月)に専攻科長から専攻科の取組等について、就職支援センター長から富山県内の企業の良さと就職活動の進め方をお聞きした。その後、進路希望調査、履歴書用写真撮影を行った。
- c. 進路ガイダンスⅢ・・・平成29年2月14日(火)に自己分析の必要性、先輩と語る会で、四年制大学編入予定者、専攻科進学予定実務就職、福祉施設、委託給食会社(石本商事(株))と、一般企業内定者の計5名から経験談を聞いた。
- d. 一般職進路ガイダンス・・・近年の傾向として一般職での就職を希望する学生が増えていることから新たな試みとして、一般職進路ガイダンスを平成29年2月6日(月)に実施し、県内の求人状況、また食物栄養学科からの一般職求人等について就職支援センター長にお話を伺った。一般職または一部視野に入れているという学生を募り、41名が受講した。

⑦ メンタルヘルス研修

平成28年12月22日(木)に2年生を対象として実施した。心の健康について基本的に必要と思われる事柄等を学ぶことができた。

⑧ 悪徳商法撃退講座 in キャンパス

富山県消費生活センターや学生部と協力し、本講座を学内で初めて平成29年2月6日(月)に受講し、富山県内での状況を弁護士から学ぶ機会となった。

⑨ 教養科目対策講座

公務員試験を念頭においた教養科目を基本とする講座を平成29年3月21日(火)～29日(水)の7日間、受講者負担で開催した。本講座は、受講者86名のうち、食物栄養学科からは7名(8.1%)が受講した。

⑩ 栄養士専門職関係の求人は本学求人票のほかハローワークやインターネット等により行っている。納得できる進路を求めて3月末まで家族を交えて相談する学生がいた。また、専攻科1年実務を依頼している施設について1名が欠員になった。

⑪ 2年担任は、進路を具体的に把握するため、5月から模擬面接や個別指導を行なっている。又、必要に応じ、支援センターと連絡を取りながら学生への個別対応に力を注いだ。

⑫ 保護者懇談会は10月23日(日)の大学祭期間中に行なわれ、1年全体会は46組、個別会では24組が参加した。2年17名の保護者に進路状況の説明など個別相談を実施した。アンケートより満足した、まあまあよかったという回答を得た。

⑬ 進学

四年制大学編入	兵庫大学 健康科学部 栄養マネジメント学科	2名
	岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科	3名
専門学校	富山調理製菓専門学校 調理技術科	1名

2) 課題・行動計画

- ① 学生は直営の給食施設、中でも保育所等への就職を求めるものが多い。栄養士免許を取得したにもかかわらず栄養士以外の職種への就職を希望する学生が例年約1割いる。2年間かけて取得した資格を将来も含めて活かすことができるようにするためには、卒業してすぐの実務経験が貴重である。専門性を高めるためには健康管理も含め、就職等についての支援の必要性がある。
- ② 医療機関や福祉施設、学校や保育所等も含め委託給食施設が増加したことから、委託給食会社への就職者数が多い傾向が年々強くなってきていたが、今年度は直営施設からの求人が昨年よりも多く学生も積極的に受験した。学科で実施しているガイダンスを5社に依頼し実施した。また、校外実習で給食管理を学ぶだけでなく職場体験を通じて自らの適性を考え就職に結びつくきっかけとなり、校外実習先で意思を問われて応募し、採用になった学生が例年より多かった。
- ③ 就職支援指導に対し、就職に意欲的な学生がいる反面連絡等も十分にとることができない学生がごく一部にいる。ホームルームや実務指導等で「報連相」の徹底を伝えるが反応の少ない学生に対しては対応が難しい。働く意欲や進路が不鮮明な学生など個々の適性に配慮し保護者と連携しながらの進路指導が難しいケースがあった。
- ④ 進学希望者に対する個別指導は、できるだけ1年次の早い時期からはじめることが望ましい。
- ⑤ 本学専攻科への進学予定者は、実務経験後入学するよう勧めている。実務させていただくことの重要性と、1年間育てるための努力をしてくださる施設の方々への感謝の気持ちを持つことを学生に伝えた。今年は希望者15名が内定を得た。
- ⑥ 内定辞退者が2名あった。1名は県外生で家族の意向もあり地元での就職に変更になり、事前に協議し了承を得て辞退であったが、1名は辞退後に連絡があったことから就職支援センター等も含めて対応にあたった。地域に根差した本学は、企業や施設との連携が欠かせないことを学生に十分に周知する必要がある。また、就職に対して意欲的に取り組めない学生に対して早期から保護者等との連携が必要である。

就職内定状況 (%)

区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成28年度	45.7	66.3	76.8	85.4	96.8	98.9
平成27年度	28.0	58.7	81.3	90.5	95.9	100.0
平成26年度	57.5	81.6	90.8	96.6	98.9	100.0

3 卒業時アンケート

1) 実績

学科独自で卒業時のアンケートを行っている。平成28年度は、平成29年2月に実施し、学

科2年生102名中回収101名の回答と得た(回収率99.0%)。入学しよかったかという質問に対しては、8割以上の学生が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた。分野別にどれだけの知識・能力が身に付いたかという質問に対しては、多くの分野で8割以上の学生が「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と答えた。仕事につくにあたり、人間関係について不安に思っている学生が多かった。

2) 課題・行動計画

毎年、学生にアンケートを依頼していろいろな意見が出てくるが、教員は真摯に受け止めPDCAを行っていくことが必要である。教育懇談会はこの結果を踏まえて実施し、少しでも学生にとって充実した2年間となるよう改善していかなければならない。

III 地域貢献

1 研究・社会的活動・所属関連団体研修

1) 実績

① 研究

多くの教員が、富山短期大学紀要へ投稿を行っていた。また、執筆等についても積極的に行っている教員が多くいた。日本栄養改善学会や日本調理学会を中心に、学会発表を行った。

平成28年度科学研究費助成授業基盤研究が1名、一般財団法人旗影会助成金が1名、富山第一銀行奨学財団研究助成金3名、大学コンソーシアム富山1名など、多数の外部研究助成を受けて研究活動を行った。また、学内助成金である学長裁量経費について4名が獲得した。

② 社会的活動

各教員は、富山県内の地域を中心に、多数の講演・講義・シンポジウムを行った。また、多くの行政や学会等の役員を務めているもいた。

③ 所属関連団体研修

所属関連団体の研修として、富山県栄養士会、富山県栄養士会総会、生涯学習研修に参加した。

2) 課題・行動計画

大半の教員が、研究を精力的に行っており成果を論文や学会に発表している。その一方、一部の教員については、自己の専門分野に関する研究活動が十分に活発であるとは言い難いので、教員全員が積極的に行い、研究業績を積み上げていく必要がある。

地域を中心に数多くの講演等を行っており、地域貢献という関連からは望ましい状況であるといえるが、教員の負担にならないよう注意していくことが必要である。

2 管理栄養士国家試験準備講習会

平成28年度

1) 実績

- ① 管理栄養士国家試験受験のための講習会を県内に在住する栄養士および専攻科学生を対象に、平成 28 年 9 月 5 日～平成 28 年 1 月 9 日に実施した。
- ② 受講者募集は 4 月に募集要項を作成し、富山県栄養士会および本学卒業生で栄養士として在職している者に案内した。申し込み期間は 5 月 18 日から 6 月 30 日までとした。
- ③ 募集定員 15 名のところ、11 名の受講申し込み受付をし、承諾通知を発送した。
- ④ 開催は、土曜日のみで 5 日間開催した。
- ⑤ 受講料を 18,000 円とし、参考書は クエスチョンバンク「2017 管理栄養士国家試験問題解説」を使用した。
- ⑥ 全国統一模擬試験を 2 回実施した。
- ⑦ 専攻科 2 年生には、全国統一模擬試験を 2 回とも全員に受験させ、1 年生には 1 回以上を受験するよう指導し、今後に向けて努力するよう促した。

2) 課題・行動計画

- ① 第 30 回試験より問題配分が変更するため、新カリキュラムに対応した試験対策の充実が求められる。
- ② 管理栄養士国家試験受験願書はまとめて入手し、受験生への配布を行っているが、受講者の受験状況と合格状況の把握が難しく、検討が必要である。
- ③ 募集定員 15 名のところ、受講申込者が 11 名で定員に満たなかった。アンケート結果を参考に講座内容の検討をしていきたい。

3 公開特別講演会

1) 実績

今年度初めて、食物栄養学科と専攻科の特別講演会を合併して開催した。講演会の演者は、栄養士・管理栄養士に必要とされる専門的な内容を様々な視点からの講演内容となった。

公開特別講演会 平成 28 年 10 月 1 日（土）13:00～16:00 富山短期大学

演題	講師名	参加者
「女子栄養大学 栄養クリニックの実際」	蒲池 桂子 先生 女子栄養大学 栄養クリニック教授	学科 173
		専攻科 24
		教職員 14
		一般県民 7
目からうろこの介護予防	精田 紀代美 先生 歯科衛生士事務所 ピュアとやま代表	報道関係 1
		合計 219 名

2) 課題・行動計画

公開講座ということで、本学の学生のみならず、県栄養士会員や地域住民等一般からの参加を増員するため、地域連携センターと連携を図りながら、行っていく。また、最新の栄養学等の情報を発信していく担い手としての大学の役割も、地域等にPRしていく。

4 公開講座

1) 実績

食物栄養学科教員が担当した公開講座の実施日時や受講者数は、以下の表の通りである。

平成 28 年度

講座名	実施日時	講師	座内容	受講者数
富山短期大学附属 みどり野幼稚園	6/25 (土) 9:30~11:30	稗苗智恵子准教授	おやつづくり	52 名
滑川市福寿大学	8/12 (金) 13:30~14:50	樋口康彦講師	老年期の心理 ー豊かな老後をめ ざしてー	55 名
滑川市福寿大学	9/9 (金) 13:30~14:50	山岸博美講師	のぼそう！健康寿 命～ちょっとした 食事の工夫あれこ れ～	67 名
富山国際学園福祉 会にながわ保育園	10/15 (土) 9:30~11:00	大森聡講師	親子で楽しむおや つ作り	65 名
富山短期大学県民 カレッジ連携講座 「大学で学ば う！」	11/26 (土) 9:30~12:00	深井康子教授	富山の正月～伝統 のおせち料理実習 ～	30 名

2) 課題・行動計画

昨年度より増して地域に密着し貢献していくことや、県内活動拠点の開発が必要と考えられる。

IV 入学者確保

1 学生募集

1) 実績

29 年度入学試験は、入学者 87 名となった。入試区分ごとの入学定員、受験者、入学者は以下の表の通りである。29 年度から公募制（併願）を取り入れた。

表 平成 29 年度入試出願・受験・合格・入学状況

入試区分		募集人員		受験者		合格者		入学者	
		H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
推薦 入試	指定校制	52	52	77	48	55	48	48	48
	併設校制								
	公募制	先願	若干名	若干名		1		1	0
	併願								
自己推薦		若干名	若干名	7	1	3	1	3	1
一般入試 I 期		23	23	47	47	27	44	19	31
一般入試 II 期		若干名	若干名	5	1	1	1	1	0
センター利用型前期		5	5	27	30	14	22	4	5
センター利用型中期		若干名	若干名	3	1	1	0	0	0
センター利用型後期		若干名	若干名	1	1	1	1	1	1
特別入試	社・学等 A	若干名	若干名	1	2	1	2	1	1
特別入試	社・学等 B	若干名	若干名	1	0	0	0	0	0
総計		80	80	169	132	103	120	83	87

表 平成 25 年～29 年度入試の受験者数推移

入試区分		H25	H26	H27	H28	H29
推薦入試		59	42	63	77	49
自己推薦				8	7	1
一般入試 I 期		43	49	48	47	47
一般入試 II 期		2	1	10	5	1
センター利用型前期		5	11(0)	43	27	30
センター利用型中期				9	3	1
センター利用型後期		2	1(0)	5	1	1
特別入試	社・学等 A	4	2(0)	4	1	2
特別入試	社・学等 B			3	1	0
総計		115	106	193	169	132

2) 課題・行動計画

- ① 推薦入試での受験者数は、昨年度よりも大幅に減少した。原因は不明であるが、

ここ数年の受験者数と不合格者の増が関係するかもしれない。推薦入試の受験者数は、定員を下回っていることから、この入試区分での受験者増に向けて対策していく必要がある。

② 一般入試Ⅰ期では昨年度、今年度と約70%の歩留りであり、センター利用型入学者数の変動が大きく、歩留り予想が難しい。

2 入学試験

1) 実績

推薦入試区分では指定校制、併設校制、公募制に加えて、公募制の併願を取り入れている。また、自己推薦入試も導入し、センター試験利用型入試も前期と後期に加え中期を取り入れ、計3回実施しているおり、幅広い受験生の確保を目指している。具体的な、入試日および実施場所等については、以下の表の通りである。

表3 平成29年度入試の選考日および選考方法

入試区分	選考日	選考方法
推薦入試	平成28年11月19日(土)	書類審査、小論文、面接
自己推薦	平成28年12月10日(土)	書類審査、面接
一般入試Ⅰ期	平成29年1月29日(日)	書類審査、筆記試験2科目(指定:国語 選択:英語ⅠⅡ、数学Ⅰ、生物基礎)
一般入試Ⅱ期	平成29年2月20日(月)	書類審査、小論文、面接
センター利用型 前期 中期 後期		書類審査、センター試験2科目 (国、数(数Ⅰ、数Ⅱ、数A)、理(物、 化、生、地学)、外(英))
特別入試 社・学等A B	平成28年12月10日(土) 平成29年2月20日(月)	書類審査、面接

2) 課題・行動計画

① 自己推薦では昨年の8名に続き今年度も7名の受験があった。学校推薦を得られなかった学生の進路選択の幅を拡大できるように今後も継続することが求められる。

② 今年度は併設校から幅広い入試区分での受験があったが、次年度以降も継続して受験者があるか推移を見守る必要がある。

3 広報

1) 実績

① 進学相談会、出張授業、本校訪問対応等

進学相談会6回、高校関係者の本学訪問時の学科紹介兼ガイド6回、高校での校内説明会18回、進学相談会6回、高校での模擬授業6回を実施した。

② 新聞報道

新聞等からの取材依頼に対して、各専門の教員が対応を行った。

③ ホームページ等

本学科・専攻科食物栄養専攻のホームページは必要に応じて変更をおこなった。食物栄養学科の新規ブログ記事は、4月2件、5月1件、6月1件、7月4件、8月3件、9月1件、10月5件、11月1件、12月3件、1月3件、2月2件（平成29年3月31日現在）であった。

④ カレッジガイドの作成

本学志望者、教員、保護者向け資料として高校生や高校に配布しているカレッジガイドの2017年度入試用の「カレッジガイド2017」は、2016年度版からの大幅改定となった。

⑤ 知っ得情報／コスモス通り(富山国際大学)

- a. 知っ得情報は、年度内発行の「推薦入試号」、「一般入試号」において、食物栄養学科の記事を作成した。
- b. コスモス通りにおいて、食物栄養学科の記事を掲載した。

2) 課題・行動計画

① ブログ

平成28年度は、ブログ記事は各行事担当者が作成すること、また、教員で担当を決め、授業紹介を行うことにした。また、学科行事や授業紹介に加え、教員の活躍や学生の活躍に関することも記事にすることができた。

昨年度に比べて記事の数が増えているがまだ十分とは言えず、今後はたとえ小さな行事であっても積極的に取り上げ、記事の本数を増やすことが望ましい。また本数の少ない月があり、今後の工夫が必要であろう。

V マネジメント体制

1 自己点検

1) 実績

学科運営のため、前期21回、後期21回の計42回の科内会議を開催した。また、アクションプランに基づき自己点検を行い、アクションプランの点検表を作成した。年度始めには、各教員が個人年間計画・評価票を作成し、その内容について学科長が点検した。年度末には、個人年間計画・評価票に基づき、業務評価を行った。シラバスについては、学科長および教員委員が、記載事項について点検を行い、必要に応じて修正を依頼した。

2) 課題・行動計画

ほぼ毎週1～2時間程度の科内会議を実施している。情報共有の観点からは、じっくりと時間をかけて会議を行うことが好ましいが、時間的な負担が多いのは事実である。情報共有と業務効率のバランスを考えていく必要がある。

2 FD/SD活動

1) 実績

少なくとも1回はFD/SD活動に参加するように働きかけた結果、全員1回以上は研修会に参加した。担任業務について、学科独自の研修会を実施した。

2) 課題・行動計画

教員間で研修会参加のばらつきが多少あるので、各教員の参加状況を把握し、出席回数の増加を目指す必要がある。

3 資源の有効利用

1) 実績

今年度末で退職および移動する教職員が3名、次年度4月より新たに採用される教員が1名いるため、学科内の業務分担については見直しを図った。次年度の教育・研究に支障ができないよう、老朽化した機器の予算申請を行った。

2) 課題・行動計画

今後も定年により退職する予定の教員が控えているので、若手教員の早急な育成が必要である。